

従業員不正（横領、背任、利益相反）から会社と従業員を守る
アジア新興国事業ガバナンスセミナー
～不正監査と不正調査の実務



【日時・場所】

東京：2018年2月1日（木）15:00 - 17:00

於 日本機械輸出組合・第一会議室

わが国企業のアジアを中心とした新興国事業の利益率の向上は、多くの企業にとって重要な経営目標となっています。その中で、新興国特有の財務不正、特に横領・背任・利益相反への対応への関心が高まっています。他方、アジア新興国における不正を防止牽制し、社内外の調査をクロスボーダーで行う体制を整備、運用することは容易ではありません。アジアにおける財務不正の実態、その対応の難しさやリスク、対応策を専門家のパネリスト形式で議論します。パネリストには本テーマに豊富な経験を有する弁護士、公認不正検査士、リスク・コンサルタントに依頼致しました。

プログラム

Discussion Theme	Main Contents
そもそも問題なのか？ - アジアにおける横領・背任・利益相反	<ul style="list-style-type: none"> 横領・背任・利益相反とは アジアにおける横領・背任・利益相反の発生可能性と、金額的規模感 実際の不正発生事例 アジアにおいて横領・背任・利益相反が発生する背景
何が難しく、何を気を付けるべきなのか？ - 日系企業の対策状況と問題解決、対応の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> アジア進出日系企業の「不正対策」と、その背景 取り組みが進む日系企業が抱える問題意識、ケーススタディー
何からどうしていけばいいのか？ - 明日からのアクション	<ul style="list-style-type: none"> 国際的な不正対策のトレンド 新興国事業の不正対策の目指すべき姿。新興国における財務不正コストを削減し、稼働力を残すガバナンス体制とは <ol style="list-style-type: none"> ① 平時対応：有事にしない、有事に備える 不正行為者がもつ「バレるかもしれない」という意識を刺激する仕掛け、不正監査技術と監査手法論、有事への準備等 ② 有事対応：慌てず、最小コストで適切な対応を ③ 初動の重要性、不正の疑いに対する社内調査の方法と留意点、DosとDon'ts

講師略歴



久保 光太郎 (くぼ こうたろう)

AsiaWise法律事務所代表、弁護士、クロスボーダーロイヤー (アジア) 米国、インド、シンガポールにおける9年に及ぶ駐在経験をもとに、インド、東南アジア等のクロスボーダー案件 (現地進出・M&A、コンプライアンス、紛争等) を専門とする。西村あさひ法律事務所を経て、2018年1月AsiaWise法律事務所を設立。



八田 拓三 (はったたくぞう)

AsiaWise Group Board Member
 株式会社アクファム代表取締役社長兼海外監査部門長
 SCS国際有限責任監査法人品質管理担当パートナー(非常勤)
 8年間で15か国に跨る豊富な不正監査、財務調査実績をもとに、アジア地域におけるクロスボーダー不正案件 (不正監視体制構築、不正監査、不正調査、財務調査等) を専門とする。



小山 裕介 (こやま ゆうすけ)

コントロール・リスキス・グループ (株) 日本総代表兼シニア・パートナー
 大手経営コンサルティング・ファーム、米系保険会社を経て現職。同社のアジア太平洋地域執行委員会、全世界のシニア・パートナー委員会のメンバーを務める。海外へ展開する企業の経営陣に対して、特に新興国における投融資、リストラクチャリングおよびガバナンス強化に関するリスク・アドバイザーとして活動。

セミナー概要・申込方法

日 時： 平成30年2月1日 (木) 15:00~17:00
 場 所： 日本機械輸出組合 第一会議室 (港区芝公園3-5-8 機械振興会館4階)
 定 員： 40名 (定員となり次第、締め切らせて頂きますのでご了承下さい。)
 参加費： 組合員限定 無料
 申込方法： 下記の当組合ホームページからお申込み下さい。
<http://www.jmcti.org/jmchomepage/semminar/index.htm>
 事務局： 日本機械輸出組合 プラント業務グループ 南塚、田中
 Tel: 03-3431-9808 E-mail: tanaka@jmcti.or.jp